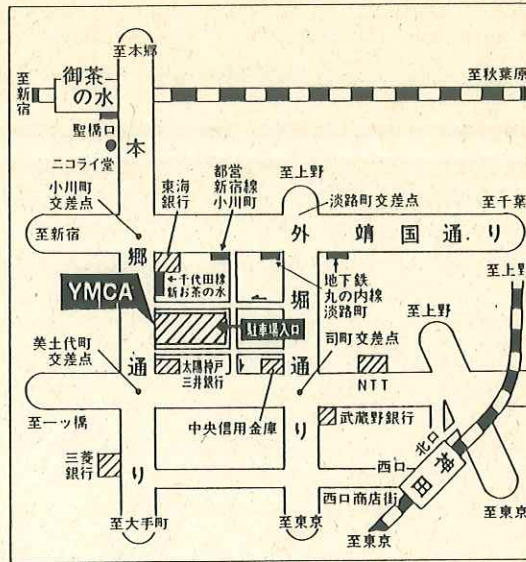


参加対象 教員および教育関係者
 定員 120人
 参加費 5000円(資料代を含む)
 食事代 1000円
 懇親会費用 2000円



東京YMCA国際奉仕センター
 J・R
 ● 神田駅 出口(西口、北口)
 ● 御茶の水駅 出口(聖橋口)
 地下鉄
 ● 丸の内線 淡路町駅 出口(A-2・A-4)
 ● 千代田線 新お茶の水駅 出口(B-6)
 ● 都営新宿線 小川町駅 出口(A-6)
 ● 銀座線 神田駅 出口(北口)
 〒101 東京都千代田区神田美土代町7番地

★宿泊ご希望の方は、東京YMCAホテル(☎03-3293-1911)会場、またはYMCAの青少年センター(☎03-3293-0611)会場まで徒歩15分、まで各自ご予約ください。

※ 参加費等の郵便払込口座：東京6-547794(口座名：ERIC)
 〒114 東京都北区田端1-2-18 津田ビル1F ERIC ☎03-5685-1177
 ★参加ご希望の方は、当事務局まで電話にてお申込みください。

〇ところ 東京YMCA国際奉仕センター(東京都千代田区神田美土代町7 ☎03-3293-7011)

〇とき 1992年6月27日(土) 2:30pm ~ 28日(日) 4:00pm

主催 日本環境教育学会、東京YMCA、YMCAアジア青少年センター、横浜YMCA
 国際理解教育・資料情報センター(ERIC)
 後援 開発教育協議会、世界自然保護基金日本委員会、庭野平和財団

1992.6.27-28

SEMINAR

環境教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

GLOBAL

【開催主旨】

身近な環境から地球環境まで「環境問題」は、深刻さを増しています。

一方、豊かさを求めた「開発」がすすんでいながらも、世界的には貧富の格差がますます広がる中で、南北問題が切実さを増しています。

これら2つの問題こそが、6月前半には、ブラジルで開催される国連主催の「地球サミット」のテーマであるわけです。

このような状況の中で、日本においては「環境教育」への関心が高まり、従来の公害教育や野外教育とは異なる形での展開が模索されようとしています。文部省や環境庁をはじめ、各教育委員会などが、指導の手引き等を発行することによって、環境教育の推進を図ろうとしているのはまさにそのあらわれの一つと言えるでしょう。しかしながら、これまでの知識重視のアプローチだけでは「問題がある」という警告に終わってしまい、自分の問題として捉えにくい状況が続いています。自らが進んで自然や環境に関心をもち、環境問題の原因を考え、その解決のために行動するための環境教育の方法が求められています。

今回のセミナーは、豊富な事例や手法を提供してくれる国内外の講師を招いて、参加者が体験しながら身につけていく「実践型」の研修の場を持つことによって、単に話を聞くこと以上の理解を図ると同時に、日本における実践への道を協力して探っていこうとするものです。

GLOBAL SEMINAR

プログラム

6月27日(土)

- 14:30 受付開始
- 15:00 開会/オリエンテーション
- 15:45 研修1
 - ① 環境と開発A
ジョン・フィエン
 - ② 環境と開発B
ジェイン・フィエン
 - ③ P L T
アディ・バスターナク
 - ④ 環境教育と
地域のづくり
飯沼慶一/森良
- 18:45 初日研修終了
- 19:00 懇親会(希望者のみ)
講師も参加予定
- 21:00 解散

6月28日(日)

- 8:30 受付開始
- 9:00 研修2(初日の継続)
 - ① 環境と開発A
 - ② 環境と開発B
 - ③ P L T
 - ④ 環境教育と
地域のづくり
- 12:00 昼食
- 13:00 シェアリング
研修1・2のシェアリング
共同記者会見
- 16:00 終了

◇ 講師自己紹介

John Fien (ジョン・フィエン) = 研修①
1978年、ロンドン大学大学院で教育学修士を取得。ロンドン大学教育学部やオーストラリアの公立高校、およびクウィーンズランド州教育庁で地理教育の実践と指導に携わる。ユネスコ国内委員会代表やオーストラリア国際開発援助局の開発教育アドバイザー等を歴任。1991年より、グリフィス大学助教授として、世界的にも、まだ数えるほどしかない修士課程レベルの環境教育プログラムを開発する。現在、オーストラリア環境教育学会会長。
著者：『よりよい世界に向けた地理教育』、『クラスで使える地理教師のためのガイドブック』、
環境教育の論文多数

Jane Fien (ジェイン・フィエン) = 研修②
1978年、クィーンズランド大学(教育学部)卒業。1985年、グリフィス大学からアジア学習の修士号を取得。オーストラリアの私立高校、ブリスベン教育大学、クィーンズランド工科大学等で社会科や歴史を中心に教えるかわら、クィーンズランド・グローバル学習センターの運営委員としても活躍。関心分野は、環境と女性、開発と女性、平和教育、アジア学習など。
1978年と79年には、特に優れた教師にインド政府から贈られる「ネルー賞」を受賞。

Andy Pasternak (アディ・パスターナク) = 研修③
現在、P L T (Project Learning Tree)の米国事務局長。ペンシルバニア大学(環境生物学専攻)とニューヨーク・シティ・カレッジ大学院(環境教育専攻)で学んだ後、ニュージャージー州の公立中学の教員(理科と数学)、ニューヨークのブロンクス動物園とスタテン島動物園の職員、ニューヨーク市の環境教育モデルカリキュラムづくり(中学生対象)の担当などを務める。

P L Tは、木を中心に据えながら総合学習のアプローチを取った環境教育のプログラム。最初のテキストは、西部13州からなる環境教育協議会の3千人以上の幼稚園から高校までの教師が参加した大規模なフィールドテストを通して1975年に開発され、現在も改訂が加えられている。全米で最も広く採用されている環境教育プログラムであり、カナダやメキシコはもとより、ヨーロッパ諸国でも使用されている。

P L Tの指導原理は、「環境の意識化」「木々の多様な役割」「文化的状況」「社会的な視点」「自然の管理と生態系の相互依存」「生命維持システム」「ライフスタイル」の7つで構成されている。

木が一木でもあれば(鉢植えでさえ)、できるように配慮されているのがいい。

飯沼慶一 = 研修④
1988年大阪教育大学大学院教育学研究科(環境科学教育)修了。現在は、私立成城学園初等学校において、環境教育の実践研究を行いつつ、学校教育と社会教育との連携の可能性を探っている。SMILE人間/環境教育研究会レンジャー、環境教育学会・監査、清里環境教育フォーラム学校研究部員。

森良 = 研修④
在日本韓国YHCAアジア青少年センター職員。1983年より知床自然教室、東京都公園ボランティアなどの自然保護教育に携わるなかで、「子どもを対象とした環境教育をライフワークとしよう」と決意。以来10年間、現場で体験的に環境教育を学んできた。現在は特に、教育現場への環境教育の普及と日本における環境教育の質的な飛躍(①原因を考え、行動に結びつける、②南北問題の解決のための市民の役割を考える)に関心をもっている。